



道徳通信

# 授業・学校生活の中で心の教育

## こころ「心」

発行年月日  
2018年12月21日  
(第2号)  
発行元  
伊達市立伊達小学校

四年生の「道徳の時間」では、『雨のバス停留所』という話を基に、規則の尊重について考える授業を行いました。

○雨の中で行列ができてい

- ・ 雨の中で待つのが辛い。
- ・ 前に行きたい。
- ・ 雨にぬれたくない。
- ・ いち早く乗りたい。

このような状況は、自分中心な考え方が起きやすくなります。このお話の主人公は、バスが来たらずきに先頭に割り込んで、乗車していきましました。行列を作っていた人から見たら、「何、あの人」と思われます。ましてや、親と一緒にいれば、その子の振る舞いにいろいろすることでしょう。

この授業では、子どもの振る

舞いに「きまりレベル」を付けて、きまりの大切さについて考えました。主人公の振る舞いは、もちろん低いレベルです。

そこで、お年寄り、子連れの母親、サラリーマンといった登場人物になり切って、主人公の振る舞いについて考えました。こういう取組を通して、子どもたちは、自己中心的な考え方がよくないことであると同時に、正しい判断と行動を一致させることの難しさを感じていました。

他人のことを考えて行動すれば、他者意識が生まれ、「きまりレベル」が向上します。自分の振る舞いにひと呼吸おく…。一人一人がそういう心掛けて生活できれば、社会も学校もよりよくなるのだと思います。

## 廊下歩行から考える心の教育

11月に児童会活動として、廊下歩行のスタンプラリーを行いました。クラス全体が正しい廊下歩行ができれば、スタンプが2個押せます。委員会は、スタンプをきっかけに正しい廊下歩行をしてほしいという思いをもっています。しかしながら、廊下歩行の改善に結びついていないのが現状です。

学級内でも、廊下を走ることで起き得ることについて、話をしています。また、子どもたちも廊下を走ればどうということが起こるかはわかっています。早く遊びたい、急いで行きたいといった理由や、子どもたちの思いも十分にわかります。ここに、よりよく生活しようという一人一人の願いと行動を一致させることの難しさがあるように思います。

道徳の学習を通して、きまりを大切にすれば、誰もが気持ちよく生活できることに、子どもたちは気付いていました。いかに、自分の心を見つめ、正しいと思うことを進んで行動できるか。これからも、授業や学校生活を通して、心の教育を進めていきます。

